

México 2006
IV Foro Mundial
del Agua



平成18年6月発行
世界子ども水フォーラムII 派遣委員会 事務局
(財)河川環境管理財団 子どもの水辺サポートセンター内
〒103-0001 東京都中央区日本橋小伝馬町11-9
住友生命日本橋小伝馬町ビル2F
TEL:03-5847-8307 FAX:03-5847-8314

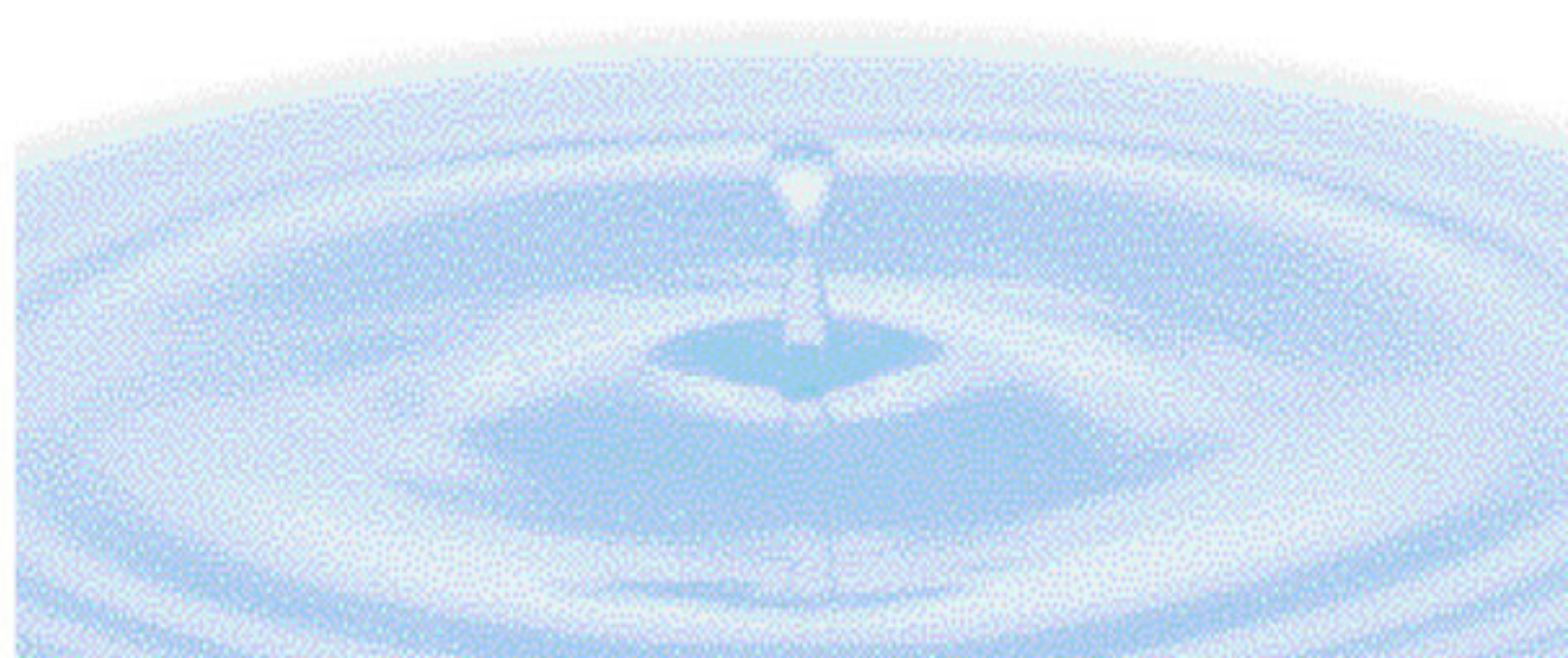
México 2006
IV Foro Mundial
del Agua



Acciones
locales
para un
reto global

第2回 世界子ども水フォーラム
in MEXICO

参加活動報告



INDEX

目次

1 概要	2
2 CWWF2に向けた勉強会	4
3 派遣委員会主催壮行会	5
4 出陣式	5
5 第2回世界子ども水フォーラム 開会式	6
6 Local Actions Presentation	7
7 Local Actions Presentation Selection	10
8 Intergenerational Dialogue	11
9 Call for Action	11
10 Global Water Education Village	12
11 第2回世界子ども水フォーラム 閉会式	12
12 その他の活動	13
12・1 在メキシコ日本大使館主催レセプション	13
12・2 ティオティワカン遺跡デイトアー	13
12・3 各国メディアからの取材	14
12・4 ワークショップ	14
12・5 生活の様子	15
13 第2回世界子ども水フォーラム活動報告会	16
14 参加国・参加者数	17
15 日本から発表した Local Action Presentation	18
16 前回主催国からのメッセージ	24
17 Call for Action (行動への呼びかけ)	27

1

概要



第4回世界水フォーラム(2006年3月メキシコシティにて開催)の一環として第2回世界子ども水フォーラム(2nd Children World Water Forum:以下「CWWF2」と言う)が開催された。

開催日 平成18年3月16日(木)～3月22日(水)

場所 メキシコシティ:メキシコオリンピックセンター

主催 IMTA(メキシコ:Instituto Mexicano De Tecnologia Del Agua水技術研究所)
(UNICEF、日本水フォーラム、プロジェクトWETインターナショナルなどが協力)

参加者 世界5Region(アジア・オセアニア、ヨーロッパ、中近東、アフリカ、南北アメリカ)から、
29カ国107名の子どもが参加

大会全体のテーマ "Local Actions for a Global Challenge"

- 派遣目的**
- ① 子ども特別セッションでLocal Actionsを発表
 - ② 子ども特別セッションのWorkshopsに参加し、世界の子どもたちと交流・意見交換
 - ③ 世代間対話セッションでLocal Actionsを発表(代表5つに選ばれた場合)
 - ④ 前回開催国からのメッセージを発信(引継式的)
 - ⑤ 参加者全員で関係へのメッセージ「子ども水宣言」の作成
 - ⑥ 世界の水事情について情報収集し、日本国内に発信
 - ⑦ 世界の子どもたちと交流し、ネットワークを構築

- 活動概要**
- ① 子ども特別セッション:
 - ・世界29カ国のLocal Actionsの発表(総計48件)
 - ・日本からは4つのLocal Actionsを発表
 - ② Workshopsに参加し、水問題について学習
 - ③ 世代間対話セッション:
 - ・①の内、優れた5つのLocal Actionsを発表
 - ・日本の4つの発表から1つが選出された。
 - ④ 開会式にて前回主催国からのメッセージを発信
 - ⑤ 子ども達による関係へのメッセージ「Call for Action」の発表
 - ・ワークショップにて日本の子どもの意見を盛り込む。
 - ・日本から1名発表者となる。
 - ⑥ 地球水教育村での学習プログラム展示&体験
 - ⑦ 世界各国の子どもたちと交流した。



第2回世界子ども水フォーラム スケジュール

月日	行 事	日本の発表
3/14	出陣式、第4回勉強会	
3/15	日本出発 ⇒ メキシコ着	
3/16	CWWF2開会式、Local Actions Presentation-1	●
3/17	Local Actions Presentation-2、Workshop	●
3/18	ティオティワカン遺跡デイズアー	
3/19	Local Actions Presentation-3	●
3/20	Local Actions Presentation-4、Presentation Selection	●
3/21	Call For Action、Intergenerational Dialogue、閉会式	●
3/22	メキシコシティ視察(博物館など)	
3/23	メキシコ発 (機内泊)	
3/24	日本着 (解散)	

第2回世界子ども水フォーラム 日本派遣団一覧

役 割	氏 名	所 属	都道府県	備 考
参加者	佐藤 裕基	Hiroki SATO	札幌市立札幌旭丘高校3年	北海道 18歳
	小野寺 希	Nozomi ONODERA	北海道標茶高校3年	北海道 18歳
	坂本 貴啓	Takaaki SAKAMOTO	福岡県立鞍手高校3年	福岡 18歳
	遠藤 惟	Yui ENDO	静岡県立菟山高校2年	静岡 17歳
	中尾 浩子	Hiroko NAKAO	福岡県立嘉穂高校2年	福岡 17歳
	村中 志帆	Shiho MURANAKA	熊本市立白川中学校3年	熊本 15歳
	上村真由佳	Mayuka KAMIMURA	京都市立神川中学校2年	京都 14歳
随 行	入江 靖	Yasushi IRIE	(財)河川環境管理財団 研究第一部長	東京
	中山 尚	Hisashi NAKAYAMA	(財)河川環境管理財団 研究第一部研究員	東京
	三浦 初美	Hatsumi MIURA	滋賀県青年交流国際機構	滋賀 兼通訳
	的井 友香	Yuhka MATOI	NPO法人 日本水フォーラム	千葉
現地通訳	矢島 弘美	Hiroshi YAJIMA	日西通訳	メキシコ 3/15-23
	向谷 美来	Mirai MUKAIDANI	日英西通訳	メキシコ 3/16-22
	ガブリエラ・エスクデーロ・マチン	Gabriela Escudero MACHIN	日英西通訳	メキシコ 3/16-22

2

CWWF2に向けた勉強会



開催日 第1回 平成17年11月19日(土)~20日(日)
第2回 平成18年1月6日(金)~8日(日)
第3回 平成18年2月4日(土)~5日(日)
第4回 平成18年3月14日(火)

場 所 財団法人 河川環境管理財団 会議室

第1回

CWWF2に出席し発表することを目的に、世界子ども水フォーラム・フォローアップin東京で選出された17名が、日本から発信する内容について、4つのテーマ(水と災害、水と自然環境、水と歴史・文化、水に関するネットワーク)でグループごとに話し合った。

また、嘉田由紀子先生(京都精華大教授)に世界の衛生問題等の講義をいただいた。

第2回

今回の勉強会では、4つのテーマ(水と災害、水と自然環境、水と歴史・文化、水に関するネットワーク)に分かれたグループで、発表資料の作成、効果的、魅力的な発表の練習を行った。

また沖大幹先生(東京大学助教授)に水に関する基礎知識及び印象的なプレゼンテーションにするためのアドバイス等の講義をいただいた。

第3回

第2回の勉強会で作成した発表資料の英訳及び英語でのプレゼンテーションの特訓等を実施し、清水芳久先生(京都大学助教授)、グレッグ・クリントン氏(インターナショナルスクール講師)の指導のもと、英語で発表を行う際のポイント、質疑応答の仕方、プレゼンテーションを聞く際の心得、効果的な英文発表資料の作り方等を全員で共有した。

第4回

メキシコ出発の前日にメキシコ派遣者7名が英語でのプレゼンテーションの練習を実施した。各自自宅での猛練習の甲斐があり、前回の勉強会(2/4)に比べて誰かが上達していた。

議論の様子



発表練習の様子



英語の発表資料作成の指導



出発直前のリハーサル



3

派遣委員会主催仕行会



開催日 平成18年3月14日(火)
場所 財団法人 河川環境管理財団 会議室
主催 世界子ども水フォーラムII派遣委員会

派遣委員会が主催で、派遣される子どもたち7名の仕行会を実施した。
仕行会では、柳瀬委員及び久保田委員から激励の言葉をいただいた。

坂本君が持ってきたカッパの衣装



派遣団一行



柳瀬委員からの激励



久保田委員からの激励



4

出陣式



開催日 平成18年3月14日(火)
場所 国土交通省 副大臣室

CWWF2に参加するに先だって、国土交通省江崎副大臣へ表敬訪問し、CWWF2への参加の意気込み表明を行った。

江崎副大臣に、派遣者一人ひとりからCWWF2で発表する内容に参加にあたっての意気込みを申し上げた。

江崎副大臣からは、「河川や水を専門にしている我々でも驚くほど、こんなに高い意識を持った中学生・高校生ならば、きっといい発表ができると思う。精一杯、自分がやりたいことをやってきなさい。」との激励をいただいた。

最後に記念撮影を行い、一人ひとりに握手と激励をいただいた。

江崎副大臣との名刺交換



意気込みを話す派遣者



一人ひとりに激励



江崎副大臣との記念撮影



5

第2回世界子ども水フォーラム 開会式



開催日 平成18年3月16日
場所 パナメックスセンター

前回開催国である日本の子どもたちから、前回作成の子ども宣言とともに、メキシコに向けたメッセージを送った。
メッセージの概要は、次のとおり。

- ・ 前回作成した子ども宣言を基に、日本の子どもたちは自らの地域で活動を続け、ネットワークを作ってきた。
- ・ 結果、子どもたちだけでなく、大人や地域の人々も活動するようになった。
- ・ これからも日本の子どもたちは活動する。大人になっても、ぜひ大人も活動してほしい。



出番を持つ日本の派遣者



メッセージ読み上げの様子



前回主催国からのメッセージ



Flag Ceremony

開会式の締めくくりとして、各国の国旗を使ったセレモニーが行われた。

フラッグセレモニー



6

Local Actions Presentation



開催日 平成18年3月16日～17日、19日～20日

場所 オリンピックセンター Tae Kwon Do Room

6.1 Local Actions Presentation PROGRAM

3/16 PM

1. MEXICO
2. JAPAN
(MOTTAINAI)
3. PHILIPPINES

3/17 AM

1. COLOMBIA
2. JAPAN
(NETWORKs overcome barriers)
3. BANGLADESH
4. FRANCE
5. NEPAL
6. MEXICO
7. MEXICO

3/17 PM

1. ETHIOPIA
2. MEXICO
3. COLOMBIA
4. NIGERIA
5. KENYA
6. COLOMBIA
7. CANADA

3/19 AM

1. TAJIKISTAN
2. CHILE
3. MEXICO
4. JAPAN
(Preserving water environments)
5. MEXICO

3/19 PM

1. SPAIN
2. THAILAND
3. LAOS
4. MEXICO
5. NICARAGUA
6. INDONESIA
7. USA
8. MEXICO
9. JAPAN
(The Power of Traditional Wisdom)
10. EGYPT

3/20 AM

1. USA
2. HONDURAS
3. DOMINICAN REPUBLIC
4. MALAWI
5. MEXICO
6. COSTARICA
7. MEXICO

3/20 PM

1. MEXICO
2. TOGO
3. NETHERLANDS
4. USA
5. TRINIDAD&TOBAGO
6. PAKISTAN
7. INDIA
8. USA
9. MEXICO

6.2 日本からの発表

1

"MOTTAINAI" (3月16日)

発表概要

日本からのプレゼンテーションのトップバッターとして、日本独自の文化である「もったいない」という価値観を水利用に活かそうという発表を行った。プレゼンテーションの途中で電源が落ち、マイクやスクリーンが使えなくなったり、そのため発表時間を大幅に縮められたにもかかわらず、素晴らしい機転により、他の参加者からの好評を得た発表となった。

発表者：遠藤 唯(静岡県立浜山高校2年)



発表の様子

質疑応答

- ・とても素晴らしい発表でした。
- ・とてもよい発表でした。メキシコにもマヤ文明など自然を大切にしている文化があります。それを私たちは忘れていきます。
- ・若者が忘れ去られた方法を使うことは素晴らしいです。
- ・肥料に小便を使うことで環境的な問題があるのでは？
- ・●●今は処理しています。

会場からのコメント



2

"NETWORKs overcome barriers" (3月17日)

発表概要

日本では水問題への関心が薄く、なかなか活動に結びつかないために、まずは同世代からのネットワークをさまざまなきっかけ(生き物調べ、カヌー、WEBなど)を通じて広げていくことが重要である。また、子どもだけでなく、地域の大人や学校でも活動を始めようになった。

活動を広げていくために必要なネットワークを、まずは、私たち子どもから作り、Local Actionを増やしていこう!また、この場で世界中の子どもネットワークをつくろう!

発表者：坂本 貴啓(福岡県立鞍手高校3年)
中尾 浩子(福岡県立嘉穂高校3年)
村中 志帆(熊本県立白川中学校3年)

発表の様子



質疑応答

- ・アイデアもやっていることも素晴らしい。
- ・政府などからお金のサポートを得るべきではないか。
- ・お金だけでなく、人的支援や物的支援も受けるべきではないか。
- ・他のコミュニティにこのプロジェクトを持っていても適用できるか。
- ・●●できる。
- ・ウォータースポーツのことが紹介されたが、すべてのところに川や湖があるわけではないので難しいのでは。
- ・●●それぞれの国の背景に合わせるべき。あくまでもきっかけづくりである。
- ・●●できなくても、インターネットなどを使って、ネットワークを広げることができる。

他国の子どもとのディスカッション



また、各国からの発表に対して、日本の子どもたちも積極的にディスカッションを行った。



質問する佐藤 裕基(北海道)



質問する坂本 貴啓(福岡)

3 “Preserving Water Environments”(3月19日)

発表概要

私達は、地域の美しい自然を守り、この美しい風景を次の世代にまで残したいと考え、自分達の地域の自然環境保全活動に取り組んでいる。

私たちの活動の事例としては、地域の貴重な湿地で行った自然保護活動、釧路湿原(日本最大の湿原)の自然保護活動、炭を使った水質浄化活動、子どもたちの視線での地域の環境点検などがある。

これらの活動を通じて、私たち「子どもたち」が自ら主体的に活動し、働きかけていくことが大切であること、私たち子どもの活動が、地域の大人たちにも活動に参加してもらうことにつながることを伝えたい。

質疑応答

- ・どのように水を浄化するのか。
●●それぞれの地域にあった伝統的な方法がある。
- ・あなたたち自身が活動に参加しているのか。
●●私たちが活動している。
- ・あなた方他には何人くらい活動に参加しているか。
●●学校のほか、市民団体、企業、公的機関など。

発表者: 佐藤 裕基(札幌市立札幌旭丘高校3年)
小野寺 希(北海道標茶高校3年)



発表の様子



質疑応答の様子

4 “The Power of Traditional Wisdom”(3月19日)

発表概要

昔は水害対策が十分でなく、洪水に遭う頻度が多かったため、人々は洪水を生活の一部として受け入れ、「洪水被害を減らす知恵」を持っていた。

私達の住んでいる地域でも洪水の起こる可能性があることから、地域の人々に洪水に関心を持ってもらうとともに「昔の洪水被害を減らす知恵」を伝えることが必要だと思い、活動を始めた。

お年寄りから洪水体験を聞き、地域の人々に昔の知恵を知ってもらう、聞いたこと、調べたことを多くの人に伝えるといった活動を行っている。

これからは、日本中へ「昔の知恵」を広め、洪水意識の向上に努めたい。さらには、世界にこの活動や「昔の知恵」を広めていきたい。

質疑応答

- ・今も同じように石積みの上に家を建てているのか。
●●今では、車が入りやすいように、同じ高さにしたり、石積みを崩したりしている。

発表者: 上村 真由佳(京都市立神川中学校2年)



発表の様子



発表の様子

7 Local Actions Presentation Selection



7.1 Evaluation (評価)

子どもたちからの発表は、子どもたち自身で評価を行った。採点は5点満点で、子どもたちは手で点数を表示し、グループごとに集計を行った。採点はプレゼンテーションが進むにつれ、子どもたちも慣れた(飽きた?)のか、だんだんと辛口の採点となった。



Evaluationの様子

7.2 Selection

Evaluationの結果のSelectionに残った11のプレゼンテーションについて、再度各2分間でプレゼンテーション(口述のみ)を行い、子どもたちが評価を行うこととなった。

日本からのプレゼンテーションは、MOTTAINAI(静岡県 遠藤 佳)、Preserving Water Environments(北海道 小野寺 希、佐藤 裕基)が選出され、2分間でのプレゼンテーション(当然英語による)を行った。

遠藤 佳(静岡県)の発表



小野寺 希、佐藤 裕基(北海道)の発表



結果、Intergenerational Dialogueで発表することとなったものは以下のとおりである。



8

Intergenerational Dialogue



世代間対話セッションでは、前日(3/20)に選ばれた5つのプレゼンテーションの発表が行われた。
日本からは、Preserving Water Environments (小野寺 希、佐藤 裕基(北海道))の発表が行われた。

浴衣姿で登場する小野寺、佐藤



プレゼンテーションの様子



高田委員がパネラーとして参加



なお、発表内容は、従前のプレゼンテーションと同様である。

9

Call for Action



Call for Actionとは、第1回CWWFで作成された子ども宣言をより実行していくための具体的取組の提案である。
この内容については、Local Action Presentationの合間を縫って、ワークショップが開かれ、子どもたちが議論してきたものを取りまとめたものである。

Call for Actionの発表者10人について、子どもたちからの立候補で決め、その中に、日本から佐藤裕基が発表者に入り、Call for Actionの発表を行った。

Call for Actionの発表の様子



佐藤 裕基の発表の様子



10

Global Water Education Village



Call for Actionが発表されている時間に、子どもたちはGlobal Water Education Village (以下GWEV)の見学に行った。GWEVでは、プロジェクトWET国際的なをはじめ、世界各国で行われている水教育についての展示と体験ができるブースが設置されていた。

子どもたちは、各国の水教育を体験し、各ブースを見学した。

ProjectWETの水の学習を体験



(財)河川環境管理財団のブース



11

第2回世界子ども水フォーラム 閉会式



Intergenerational Dialogueに引き続き、閉会式が執り行われた。
閉会式では、主催者から参加者一人ひとりへ修了証が手渡された。

修了証の授与の様子



修了証の授与の様子



カッパパフォーマンス



閉会式の集合写真



12

その他の活動



12.1 在メキシコ日本大使館主催レセプション

3月17日午後18:30から在メキシコ日本大使館主催のレセプションがメキシコシティのホテルで開催された。

レセプションには、皇太子殿下、橋本龍太郎JWF会長がご出席された。皇太子殿下は日本から参加した子どもたちと謁見され、激励のお言葉をいただいた。また、子どもたちからはCWWF2参加の意気込み及び活動について申し上げた。



皇太子殿下との謁見の様子

12.2 ティオティワカン遺跡デイトアー

3月18日は、初めてオリンピックセンターを離れ、メキシコシティ近郊にあるティオティワカン遺跡への視察ツアーが行われた。



出発前の日本派遣団



太陽の塔と月の塔(奥)



メキシコ風物のサボテン



水と農耕の神(博物館内)



太陽の塔



月の塔

ティオティワカン遺跡は、その都市生活を維持するために、生活に必要な水に関するさまざまな工夫があることが、ガイドより紹介された。遺跡の大きさと古代人の偉大さに、ただただ驚きの連続であった。

12.3 各国メディアからの取材

CWWF2開催中には、各国からのメディアが取材に訪れ、日本の子どもたちはインタビューを受けTV等に出演した。また、CWWF2開会式での日本からのメッセージは、メキシコのニュースで放映されたとのことである。



メキシコ国営放送への生出演(佐藤 裕基)



メキシコ国営ラジオの取材(坂本 貴徳)



オランダからの取材を受け、日本の歌を歌う子どもたち

12.4 ワークショップ

1) Sum of the Parts : Project WET

3月17日午後開催されたWorkshopsでは、WET Internationalが行う“Sum of the Parts”に日本の子どもたちは参加した。これは、流域のさまざまな汚染源から川を汚す様子を体験し、その対策について考えるアクティビティである。アクティビティは2つの手法により実施された。1つはジオラマを用いて、川が汚れる様子を調べるもの、もうひとつは、川に面した土地を開発した絵を自由に描き、その開発が川に与える影響を調べるものである。

参加した日本の子どもたちは、川の汚れる様子を実感するとともに、その対策について他国の子どもたちとディスカッションを行った。



川のジオラマによる汚染実験



川に面した場所での開発の絵

2) Call for Action

第1回CWWFの子ども宣言をより具体的に実行するための行動宣言について、子どもたちで作成するワークショップが行われた。

Call for Actionでのワークショップでは、日本の子どもたちも積極的に発言し、その意見はCall for Actionの宣言に多く取り入れられた。



ワークショップの様子



日本の派遣者も積極的に参加

12.5 生活の様子



子どもたちの食事の様子



3食毎日ほぼ同じ内容の食事



各部屋の様子(他国の子どもと2段ベッド)



昼休みはバレーボール

13

“第2回世界子ども水フォーラム” 活動報告会



開催日 平成18年5月20日(土)

場所 財団法人 河川環境管理財団 会議室

主催 子どもの水辺サポートセンター

参加者 メキシコ派遣者及び随行者

第1回世界子ども水フォーラム及び今までのフォローアップ大会参加者など

目的 ①CWWF2での経験・成果を共有する。

②今後の国内の子どもたちの活動について話し合う。

報告会の内容

1) CWWF2での活動報告

派遣者からCWWF2での活動について発表し、その体験・経験から、“日本の子どもたちに伝えたいこと”が各人から発言された。

- ・今回のCWWF2では日本の発表の評価は高かった。日本の子どもたちの活動は自信を持っていた。
- ・英語が通じるか不安だったが、言葉は通じなくても意図は伝わり、日本の取り組みは理解してもらえた。
- ・日本は、どんな国からも友好的に迎えられた。これからどんどん世界に出て行くことも重要だ。
- ・単にメッセージだけでなく、具体的に活動することで、日本の発表は評価された。具体的に行動することが大切であることを伝えたい。



CWWF2での経験を発表する派遣者

2) これからの日本の取り組み

活動報告の後、これからのフォローアップ大会の開催について、参加者全員でディスカッションを行った。

- ・活動を広げるための大会にしたい。
- ・メキシコでの経験を共有したい。
- ・日本版Call for Action(活動へのよびかけ)を作りたい。
- ・話し合いだけでなく体験活動も大切。
- ・いままでの参加者が仲間を集める。
- ・ブログやメーリングリストなど、離れていても話し合える場を作る。
- ・活動をPRする。(新聞への投書、イベントなど)

などの意見が出され、今後、子どもたち及びOB・OGの大学生などで、フォーラムの内容を考えていくことが話し合われた。

現在、子どもたちの意見発表の場として、ブログ及びメーリングリストを開設し、意見交換が始まっている。

ブログ <http://cwwf-f.jugem.jp/> メーリングリスト cwwf-f@sml-z5.infoseek.co.jp



グループ毎にディスカッション



各人ができることを提案

14

参加国・参加者数



(順不同)

国	地域	参加者数
1	バングラデシュ	アジア太平洋
2	カナダ	北米
3	チリ	中南米
4	コロンビア	中南米
5	コスタリカ	中南米
6	ドミニカ共和国	中南米
7	エジプト	中東
8	エチオピア	アフリカ
9	フランス	ヨーロッパ
10	ホンジュラス	中南米
11	インド	アジア太平洋
12	インドネシア	アジア太平洋
13	日本	アジア太平洋
14	ケニア	アフリカ
15	ラオス	アジア太平洋
16	マラウイ	アフリカ
17	メキシコ	中南米
18	ネパール	アジア太平洋
19	オランダ	ヨーロッパ
20	ニカラグア	中南米
21	ナイジェリア	アフリカ
22	パキスタン	アジア太平洋
23	フィリピン	アジア太平洋
24	スペイン	ヨーロッパ
25	タジキスタン	アジア太平洋/ヨーロッパ
26	タイ	アジア太平洋
27	トーゴ	アフリカ
28	トリニダード・トバゴ	中南米
29	アメリカ (ネイティブアメリカン含む)	北米

計107名
(男子45名・女子62名)

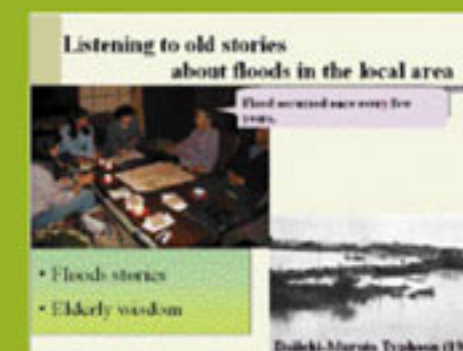
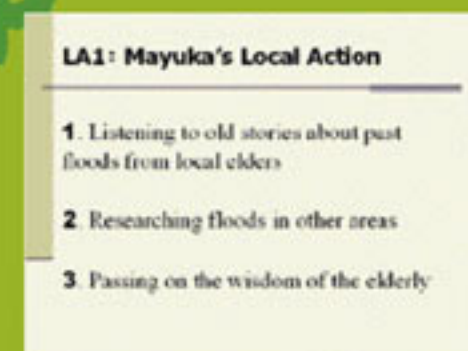
※引率者、ファシリテーター等含まない
※メキシコは、子どもプレスを含む

15

日本から発表したLocal Action Presentation



1 The Power of Traditional Wisdom



LA1: Mayuka's Local Action

Listen to stories about floods and traditional flood-damage reduction

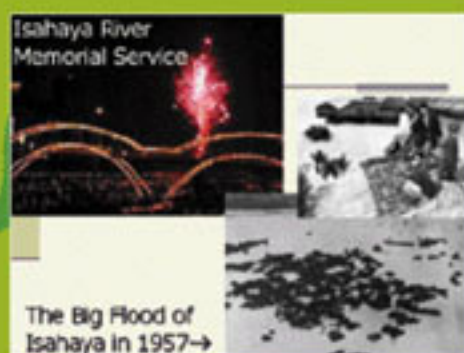
[past] People accepted floods as a part of daily life
[today] Less people know about floods

Teach traditional methods

Pass on the value of traditional methods

LA2: Kaho's Local Action

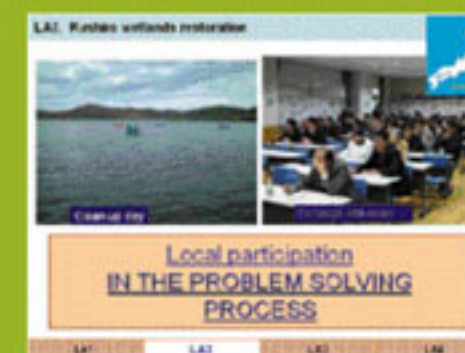
- 1 Research into a Big Flood in Isahaya-city
- 2 Letter sent to the Mayor of Isahaya
- 3 Video report distributed



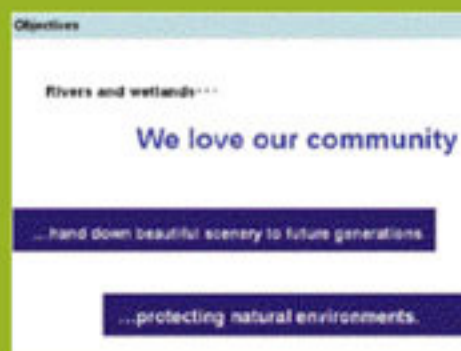
MESSAGE

- Rely on yourself for flood protection and preparation
- Help each other and evacuate
- Spread traditional wisdom locally and abroad to raise awareness
- Learn from foreign countries

Let's exchange opinions on how to cope with floods

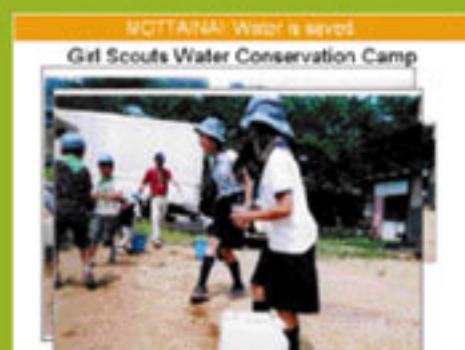


2 Preserving water environments



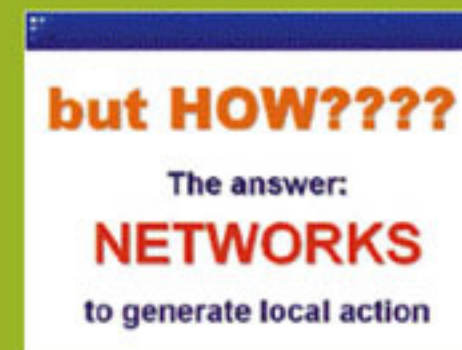
3

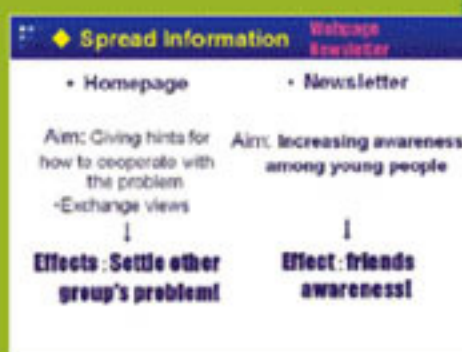
MOTTAINAI



4

NETWORKs overcome barriers





16

前回主催国からのメッセージ

(第2回世界子ども水フォーラム開会式)

1

Como parte de las sesiones del Tercer Foro Mundial del Agua, celebrado en Japón hace tres años, en marzo de 2003, se llevó a cabo el Primer Foro Mundial del Agua de los Niños.

2

En dicho foro, participaron 109 niños y jóvenes de 32 países para exponer y discutir sobre los problemas relacionados con el agua con que se enfrentaba cada país.

3

Al escuchar las exposiciones presentadas por cada uno de los países participantes, los niños japoneses quedamos verdaderamente impactados, ya que no sabíamos realmente de la diversidad ni de la gravedad de los problemas relacionados con el agua.

4

Para conseguir este líquido vital, el "agua", en algunos países los niños se ven obligados a acarrearla durante varias horas, lo que les impide asistir a la escuela. En otros, existen casos en que sólo se cuenta con un baño para niñas en una escuela donde estudian mil alumnos, ocasionando que las niñas dejen de ir a la escuela. Los niños japoneses nos dimos cuenta por primera vez de que en el mundo conseguir el "agua" no sólo implicaba problemas del "agua", sino que abarcaba hasta asuntos relacionados con la educación y con la discriminación sexual.

5

El último día del Primer Foro, todos los jóvenes participantes del mundo juntos presentaron el "Manifiesto de los Niños sobre el Agua", el cual contenía los deberes de los gobiernos de todos los países, así como los compromisos de los niños y jóvenes.

1

今から3年前の2003年3月、日本で開催された「第3回世界水フォーラム」のセッションの一つとして、「第1回世界子ども水フォーラム」が開催された。

2

このフォーラムには、世界32カ国から109名の子どもたちが参加し、それぞれの国が直面している水問題について、発表し語り合った。

3

各国の発表を聞き、日本の子どもたちは非常に大きなショックを受けた。それは、水問題の多様さ、深刻さを実感として知らなかったからだ。

4

生活に必要な「水」を確保するために「子ども」が何時間もかけて水を汲みにいかなければならず、そのため「子ども」が教育を受けることができなくなる国や、1000人が通う学校に女子トイレが一つしかなくこのため女子生徒が学校に行かなくなるという国もあり、世界には、「水」の確保が単に「水」だけの問題にとどまらず教育問題や性差別の問題にまで広がっていることを初めて知った。

5

フォーラムの最終日には、参加した世界の子ども全員が、「各国政府の義務」と「子ども・若者の約束」を盛り込んだ「子ども水宣言」を発表した。



6

Los participantes japoneses en el Foro nos comprometimos a hacer todo lo que pudiéramos para hacer realidad este Manifiesto; reunirnos para aprender más sobre problemas relacionados con el agua en Japón y en todo el mundo; invitar a más amigos para que se unan a nosotros en nuestras actividades y ponernos en acción por nuestra propia iniciativa; así como movilizar a los adultos para que actúen.

7

Se piensa que Japón es un país con abundantes recursos hídricos. Desde tiempos antiguos hemos apreciado el agua y hemos desarrollado una cultura original en relación con el agua que debemos proteger. Sin embargo, el país se ve aquejado por diversos problemas relacionados con el agua, como las frecuentes inundaciones y las sequías, el deterioro de la calidad del agua y de los ecosistemas de los ríos y pantanos.

8

Por lo tanto, los jóvenes japoneses sentimos la necesidad de actuar en nuestros vecindarios a nivel local.

9

Durante estos tres años, desde la celebración del Foro anterior hasta el día de hoy, nosotros hemos ejecutado distintas acciones en nuestras comunidades locales, para cumplir los compromisos de los niños y jóvenes.

10

Además, por iniciativa propia conseguimos celebrar asambleas de Seguimiento del Foro Mundial del Agua de los Niños, con la asistencia de adultos, para construir una red de personas de todas las edades en Japón. Hasta ahora, hemos organizado un total de tres asambleas, una al año, con la participación de 60 a 80 niños y jóvenes en cada una, con la finalidad de discutir sobre los problemas relacionados con el agua, tanto de Japón como del mundo, así como de informar sobre nuestras actividades. También presentamos algunas propuestas a los adultos.

6

参加した日本の子ども・若者たちは「この宣言文の中からできることをまずやろう、日本の子ども・若者たちが集まってもっと国内や世界の水問題を学ぼう、水に関心を持つ仲間を増やそう、私たちがまず動いて大人たちを動かそう」と決めた。

7

日本は、水に恵まれた国とされているかもしれないが、洪水・渇水の頻発や、河川や湿地の水質・生態環境の悪化など様々な水問題を抱えている。また、「水を大切に思う」日本人が作り上げてきた、守るべき日本独自の水文化もある。

8

私たち、日本の子どもたちは、自分たちの身近なところから、自分自身の手で行動を起こさなければいけないと感じた。

9

そして、前回フォーラムから今日までの3年間、私たちは「子ども・若者の約束」を果たすため、自分の住む地域において様々な行動を起こした。

10

また、私たち子どもが提案し、大人たちも協力してくれて、日本国内での子どもと若者と大人のネットワークを作る「世界子ども水フォーラム・フォローアップ」大会を開催した。これまでに毎年、計3回の大会が開催され、毎回60~80名の子どもたち・若者が参加し、日本や世界の水問題、それに向けての自分たちの活動について話し合った。大人たちにも提案した。

11

En esta ocasión, nosotros siete estamos muy contentos de estar en México y poder presentar nuestras actividades en representación de todos nuestros amigos de las asambleas de Seguimiento del Foro Mundial del Agua de los Niños.

12

Creemos que la participación en este Foro nos da la oportunidad de poder entablar amistad con muchos niños del mundo y ampliar una red global sobre el agua con estos nuevos amigos.

13

Estamos dispuestos a actuar día tras día para dar solución a los problemas del agua en nuestras comunidades locales, mejorando nuestros conocimientos a través del intercambio de ideas e información.

14

Será un granito de arena lo que pueda hacer cada uno de nosotros, pero si todos los niños del mundo, tomados de la mano, llevamos a cabo lo que esté dentro de nuestro alcance, creemos que los adultos también actuarán y que juntos podremos resolver poco a poco los problemas del agua del mundo en el futuro.

15

No existe una "panacea universal" efectiva para la solución de los problemas del agua del mundo. Una infinidad de acciones locales serán precisamente las mejores medidas para solucionar estos problemas del agua.

16

Nosotros los niños y jóvenes actuaremos y seguiremos actuando en el futuro. Por eso, exhortamos a que ustedes los adultos también se pongan en acción, y que nos apoyen en nuestras acciones.

17

Para terminar nuestro mensaje, deseamos expresar nuestro profundo agradecimiento a todas las personalidades, organizadores y amigos de todo el mundo por habernos brindado esta valiosa oportunidad en el Segundo Foro Mundial del Agua de los Niños. Muchas gracias.

11

今回、私たち7人は、そのフォローアップ大会参加者の代表として、また、自分たちの活動を発表するために、このメキシコ大会に参加した。

12

私たちは、この第2回世界子ども水フォーラムに参加し、たくさんの世界の子もたちと仲間になることができた。私たちは、この仲間とグローバルなネットワークを作りたいと思う。

13

そして、お互いに知識や情報の交換をし、さらに知見を深めつつ、自分たちの地域の水問題の解決に向けて、日々行動していきたいと思う。

14

私たち一人ひとりができることは小さいかもしれないが、世界中の子もたちが手をつなぎ自らができることを実行すれば、世界の大人たちも動いてくれ、これからの世界の水問題を少しずつ解決できると思う。

15

世界の水問題解決に有効な「万能薬」はない。無数のローカルアクションこそが、水問題解決への最善の手段である。

16

私たち子どもたちは行動する、それはこれから大人になっても。だから大人の皆さんも行動して欲しい。そして子どもたちの行動を支えて欲しい。

17

最後に、私たちにこのような機会を与えてくれた主催者の皆様、関係者の皆様にお礼申し上げ、私たちからのメッセージとさせていただきます。

17

Call for Action (行動への呼びかけ)



(第4回世界水フォーラム・世代間対話セッション)

We, the 110 children of the 2nd Children's World Water Forum, representing 29 countries, reaffirm the Children's Water Manifesto drafted by 109 children in Kyoto, Japan, in 2003. United, we call for action to support the participation of children in water, environment, sanitation and hygiene education, to meet the Millennium Development Goals. Sadly, the 2003 Children's Water Manifesto has seen little concrete follow up. Now, three years later, we renew our call to the adult world to involve children in local actions to overcome the critical global challenge facing our water and sanitation environment.

Today UNICEF says there are 400 million children worldwide without enough safe drinking water to live. This is wrong. This is killing our future. We call on you to act.

We ask all adult decision makers to:

México 2006
IV Foro Mundial
del Agua



私たち、第2回世界子ども水フォーラムに参加する29カ国、110名は、2003年に京都で109名の子どもたちの手で書かれた「子ども水宣言」を、ここにもう一度主張します。私たちは団結し、ミレニウム開発目標達成に向けた水、環境、公衆衛生、衛生教育分野における取り組みへの子どもの参加を支援するための行動を求めます。残念なことに、2003年の「子ども水宣言」は、具体的なフォローアップがほとんどありませんでした。そして3年たった今、私たちは、子どもたちをローカルアクションに巻き込むよう、大人の世界に再び要求します。それは、私たちが世界中で直面している、水や衛生環境の危機的で困難な状況を克服するためです。

今日、ユニセフは世界中の4億人の子どもたちが、生きるのに十分で安全な飲料水がないと言います。このようなことは間違っています。これは、私たちの未来を奪っていることです。皆さん、行動を起こしましょう。

私たちは、決定権を持つ全ての大人に、次のことをお願いします。

私たちは、決定権を持つ全ての大人に、次のことをお願いします。

1 Fulfill the human right to sustainable, safe drinking water supplies and basic sanitation, through the provision of child-friendly facilities in all schools and communities, taking into account the needs of girls, very young children and children with disabilities.

2 Encourage children to participate in water supply and sanitation programmes, give scholarships and project grants to those who are most active.

1 持続可能かつ安全な飲料水の提供と基本的な衛生環境の整備という人間の権利を守ってください。そのために、全ての学校や地域で、子どもたちに優しい施設を作ってください。特に、女の子や幼い子、障害のある子が必要としていることを考慮してください。

2 子どもたちが、水の供給や公衆衛生のプログラムに参加することを奨励してください。そのためには、最も活動的な子どもたちに、奨学金や活動資金を出すようにしてください。

3 Create a children's parliament in every country, which includes a committee on water, environment, sanitation and hygiene issues. Take these parliaments seriously in decision-making processes.

4 Support networks of children at all levels, to exchange ideas and support one another in their local actions.

5 Visit our communities, observe our local actions and respond to our requests for support face to face.

6 Value us as partners and promote our actions through national radio and television programmes.

7 Use direct language in plans and strategies, addressing what children need and want.

8 Enforce laws to stop deforestation, because without trees the groundwater disappears and the soil destabilizes. For one tree cut we ask you to plant two more.

9 Help us teach all children (without discrimination by age, race, gender, religion or economic status) how to make contaminated water fit for drinking and how to properly dispose of waste in emergency situations.

3 全ての国で、水、環境、公衆衛生問題に取り組む委員会を含む「子ども議会」を設置してください。そして、意思決定の段階で、この議会のことを真剣に考慮してください。

4 地域活動において、アイデアを交換したり、お互いに助け合ったりして、あらゆるレベルの子どもたちのネットワークを支援してください。

5 私たちの地域を訪問してローカルアクションを視察し、直接向かい合って、私たちの要求を聞いてください。

6 私たちをパートナーとして評価し、全国のラジオやテレビ番組を通して、私たちの行動を促進してください。

7 計画や戦略においては、直接的表現を用い、子どもたちが何を求め、欲しているかを明示してください。

8 森林破壊を阻止する法律が守られるようにしてください。木がないと地下水も失われ、地盤が不安定になります。木が1本切り倒されたら、2本の木を植えてください。

9 私たちが、全ての子どもたちに(年齢、人種、性別、宗教、または経済力による差別なしに)、汚れた水を飲めるようにする方法や緊急時において適切にゴミを処分する方法を教える手助けをしてください。



10 Not allow water to become what oil is today: scarce and expensive. Big water (and other) companies should invest ten cents of every dollar of their profits to guarantee safe water for children wherever they are.

10 水が、現在の石油のように欠乏したり、高価にならないようにしてください。大手の水道会社（他の企業も）は、あらゆる地域の子もたちに安全な水を保証するために、1ドルの利益につき10セントを投資してください。

11 Support peer-led water education, have clubs organized in our schools and communities.

11 仲間同士で水教育を行うための学校や地域社会でのクラブをサポートしてください。

12 Guarantee an equal playing field for poor people and polluters.

12 貧しい人々にも、環境を汚染する人々同様に、公平な立場を保障してください。

13 Fine those who dump human faeces into our water. Use money from the fines to build water treatment plants.

13 人糞を海や川に投棄する人々に、罰金を科してください。そのお金は浄水施設を整えるために使ってください。

14 Apply common sense in governance. Make rules that can be implemented. Enforce and implement laws for those who contaminate our waters so that there are consequences to be faced.

14 政治において、共通認識を持ってください。実行可能な規則を作ってください。そして、水を汚染する人々がその結果に直面するよう、法律を施行し、実行してください。

15 Consider the cost of medical treatment and school days missed of children who fall sick because of polluted drinking water and lack of hygiene and sanitation.

15 汚染された飲み水や衛生状態の悪さから病気になる子どもたちもいます。彼らの医療費や、学校を欠席しなければならない状況について考えてあげてください。

16 Make it possible for communities and children to participate in the management of the water supply and sanitation facilities to ensure that there is ownership of the facilities.

16 地域社会の人々や子どもたちに、水供給や衛生施設の所有権があることを保証し、その管理に参加できるようにしてください。



17 Do not allow water to be privatized. Ensure that water is a resource available for all people.

17 水道を民営化しないでください。水は、全ての人が使うことのできる資源だと保証してください。

18 Do not divert rivers because this creates serious ecological damage to the watershed areas.

18 川の流域に深刻な環境破壊をもたらすので、川の流れに影響を与えることはしないでください。

19 Hold primary polluters responsible for poor water quality in developing countries.

19 開発途上国において、水質悪化の責任は一次汚染者にあるとみなしてください。

20 Ensure the participation of children in national agendas for poverty reduction, sustainable safe drinking water supply and basic sanitation, education and gender equality.

20 貧困削減、持続可能な安全な飲料水の供給、基本的な衛生設備、教育、男女平等などの国の政策に、子どもたちが参加できるように保証してください。

We, the children of the world,
are ready to work with you.
Are you ready to work with us?

私たち、世界中の子どもは、あなたたちと協同する
準備はできています。
あなたたちは、準備できていますか？

